TDB Business View
2026/11/10

26 年 9 月のカレー物価 1食 342 円 5 年ぶりに前年割れ

コメ価格高の収束が下押し要因に 10 月は 25 年春以来の低水準

「カレーライス物価指数（2026 年基準改定）」調査 ―2026 年 9 月

帝国データバンク

本件照会先

飯島 大介（調査担当）
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343（直通）
情報統括部：tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日
2026/11/10

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

次回調査の公表予定

2026 年 10 月の発表は
2026 年 12 月 10 日（木）午前 10 時

SUMMARY

カレーライスを家庭で調理する際に必要な原材料や水道光熱費などの価格（全国平均）を基に算出し、食卓に与える物価高の影響を可視化した「カレーライス物価（平均、2026 年基準改定）」は、2026 年 9 月で 1 食あたり 342 円となった。前月（348 円）から 6 円低下し、約5年ぶりに前年を下回った。

株式会社帝国データバンクは、食卓への影響度を示す「カレーライス物価指数」を独自に試算した。

［注 1］カレーライス物価：カレーライスで使用する原材料や、調理にかかる水道光熱費などを独自に試算した指数。
ビーフカレー・ポークカレー・チキンカレー・シーフードカレー・野菜カレーの 5 メニュー平均値
各種価格データは「小売物価統計調査（総務省）」のうち各都市平均値（全国平均）を参照。調理シーンは「6 食分（市販のカレールー1/2 パック）をまとめて調理した」ものとした。
カレーライス物価指数：各月のカレーライス物価を基に、2020 年平均＝100 とした価格推移

［注 2］カレーライス物価は 2026 年 1 月に調査対象・容量を一部変更し、2015 年 1 月分まで遡及改定を行っている

2026 年 9 月のカレーライス物価：1食 342 円
2021 年以来、約 5 年ぶりに前年同月を下回る

カレーライスを家庭で調理する際に必要な原材料や水道光熱費などの価格（全国平均）を基に算出し、食卓に与える物価高の影響を可視化した「カレーライス物価（平均、2026 年基準改定）」は、2026 年 9 月時点で 1 食あたり 342 円となった。前月（348 円）から 6 円低下し、5 カ月連続で前月を下回った。また、前年同月（351 円）から 9 円低下し、2021 年 5 月以来約 5 年ぶりに前年同月を下回った。

東京都区部の物価動向を基に予想した前月調査時点の予想値（342 円）と同水準で、カレーライス物価は想定通りの低下ペースで推移した。

2026 年は、大きく進んだコメ価格の下落が引き続き物価全体を押し下げた一方、野菜価格の高止まりや一部食材の値上がりが下落幅を抑制した。コメ価格高騰に端を発した「令和のコメ騒動」の影響は大きく後退し、足元では新米流通の本格化に伴う需給改善が進んでいる。ただ、食材価格全般では依然としてコロナ禍前の水準を上回る品目が多く、家計の負担感が完全に解消された状況には至っていない。

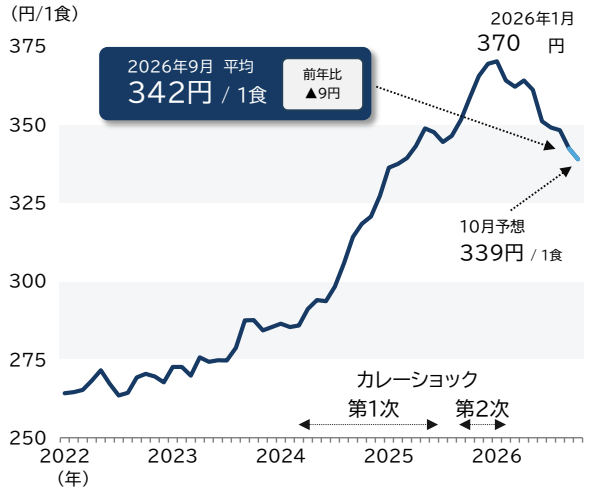
メニュー別では、「シーフードカレー」が 501 円と最も高く、「ビーフカレー」が 448 円で続いた。一方、最も安いメニューは「チキンカレー」の 213 円だった。コメ価格の下落を背景に、全体としては上昇圧力が和らぐ傾向がみられた。

前年同月との比較では、5 メニューすべてで前年を下回った。最も値下げ幅が大きかったメニューは「野菜カレー」（▲20 円）で、2021 年 8 月（182 円：▲21 円）以来、約 5 年ぶり。「ビーフカレー（総合）」（▲5 円）、「ポークカレー（総合）」（▲7 円）も、それぞれ 3 年 4 カ月ぶりに前年を下回った。円相場や海外需給の影響を背景に、輸入牛肉など一部原材料ではコスト高が続くものの、コメ価格の下落に加え、前年に高騰が続いた鶏肉や一部野菜の供給環境の改善による価格の反転安が続いたことで、全体の価格上昇圧力は徐々に緩和されている。

各メニューの平均値から算出した「カレーライス物価指数（2020 年平均＝100）」は、2026 年 9 月時点で 135.9 となった。過去最高圏で推移している状況に変化はないものの、2026 年前半まで続いた上昇トレンドには明確な鈍化がみられ、物価高のピークアウトを示唆する動きが鮮明となっている。

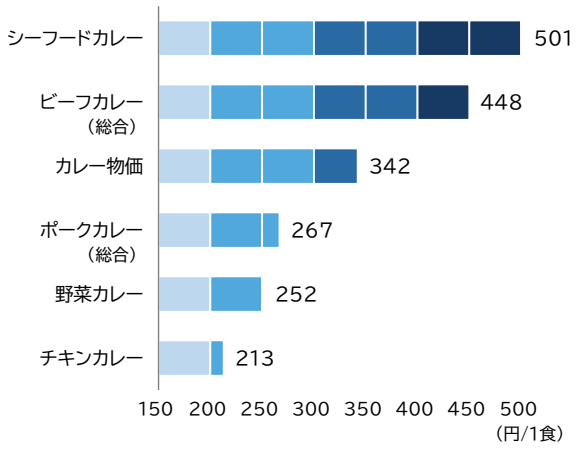
カレーライス物価の動向（月平均、2020 年以降）

「カレーライス物価」推移（月平均推移）



［出所］総務省「小売物価統計調査」を基に帝国データバンク作成
［※］カレーライス物価：カレーライスで使用する原材料や、調理にかかる水道光熱費などを独自に試算した指数

メニュー別「カレーライス物価」（2026 年 9 月）



［※］ポーク・ビーフカレーは「国産・輸入」各使用時の平均値

今後の見通し：2026 年 10 月＝339 円予想
コメ価格安継続で下落基調　焦点は野菜価格

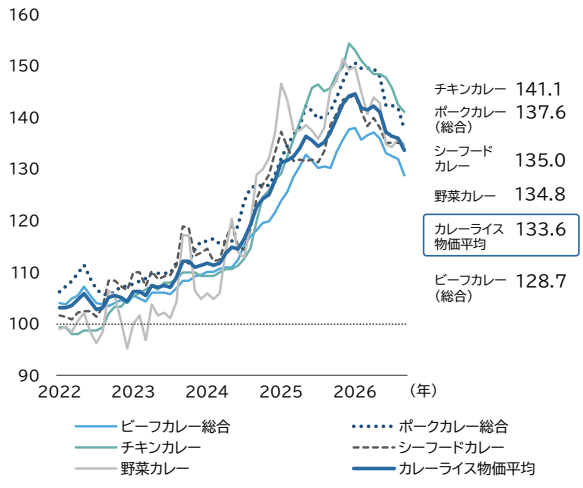
全国の物価の先行指標となる東京都区部の物価動向を基に予想した 2026 年 10 月のカレーライス物価は 1 食あたり平均 339 円前後で推移する見通しとなった。9 月から 3 円下落し、2025 年 3 月以来、1 年 7 カ月ぶりに 340 円を下回る見通し。新米流通の本格化を背景としたコメ価格の下落に加え、ジャガイモやタマネギ、ニンジンなどカレーの主要食材価格がおおむね安定して推移していることが、押し下げ要因となっている。

特にカレーライス物価の多くを占めるコメ価格では、古米が 5kg2,000 円前後で販売される事例がみられるほか、2026 年産の一般銘柄米でも 5kg3,000 円を下回る店頭価格が定着しつつある。政府備蓄米放出や需給環境の改善、新米流通量の増加などを背景に、年末にかけてもコメ価格は下落基調を維持する可能性が高い。そのため、カレーライス物価も 2025 年春以来の低水準へ向かう展開が予想される。

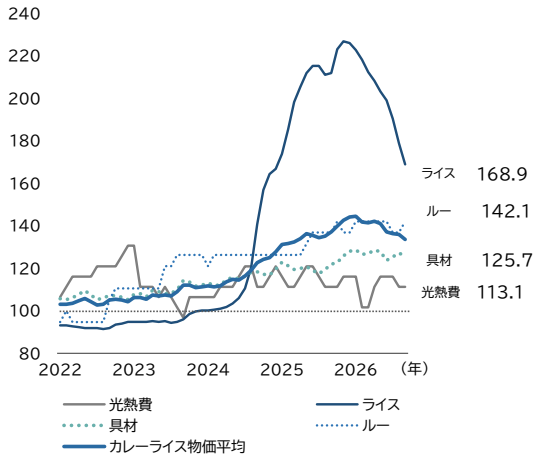
一方で、先行きには不透明要因も残る。関東地方を中心とした長雨や日照不足の影響により、一部葉物野菜では価格上昇の兆しがみられている。現時点ではタマネギやジャガイモ、ニンジンなどカレーの主要食材への影響は限定的とみられるものの、来期作に向けた種芋不足や天候不順が長期化した場合には、2027 年以降に再び野菜価格が上昇へ転じる可能性もある。また、円相場やエネルギー価格の動向によっては輸入食材や物流コストが上昇し、カレーライス物価の下落基調を鈍らせる要因となることも想定される。

カレーライス物価指数の動向

「カレーライス物価指数」メニュー別推移



「カレーライス物価指数」具材別推移



［※］「具材」はメニュー5種の平均値

各メニュー別の具材は、各レシピサイト等を基に下記の通りと定義した（ごはん[ライス]、水道光熱費は共通）
【ビーフカレー】牛肉（国産・輸入）・タマネギ・ジャガイモ・ニンジン・食用油・カレールー
【ポークカレー】豚肉（国産・輸入）・タマネギ・ジャガイモ・ニンジン・食用油・ヨーグルト・カレールー
【チキンカレー】鶏肉（国産・モモ）・ニンジン・食用油・カレールー
【シーフードカレー】エビ・ホタテ貝柱・イカ・ニンジン・トマト・タマネギ・食用油・白ワイン・カレールー
【野菜カレー】タマネギ・ジャガイモ・ニンジン・ナス・シメジ・ブロッコリー・食用油・カレールー